

神楽名

しも た ばる 下田原神楽

伝承地

下田原・高岩地区
高千穂町大字田原

指定等

国指定重要無形民俗文化財

伝承団体

下田原神楽保存会
代表 内倉 清隆



杉 登

◆ 神楽の概要・由来・その他

高千穂神楽の^{かみの}上野・田原系統に属する神楽である。下田原地区は熊本県境に位置し、下田原公民館と高岩公民館の二つの自治公民館集落で構成されている。地区には^{ひろふく}広福神社、^{そのめ}染野稻荷神社、^{ながれ}流尾妙見神社、^お拝鷹天神があり、また^{さばだいし}鯖大師像が祀られた茶堂が三ヶ所ある。夜神楽当番は10集落の年次回しで行われ、それぞれの集落に近い神社の氏神祭りとして奉納されている。^{すくなひこなのみこと}少名彦名命・^{あたご}愛宕將軍を祭神とする^{ひろふく}広福神社は下田原地区の中心的神社で、境内にある「神楽傳授碑」には、^{ほうししや}明治から現在に至る神楽の祝子者の名前が刻まれている。

下田原神楽は、旧下野村に奉公していた^{うちくら}内倉福松が下野神楽を習得し、明治18年に下田原に伝えたとされる。その後、三代目師匠の^{こうろぎじはち}興梧治八が記した下田原神楽の舞あらすじ、^{しょうぎょう}唱教、建て歌などを、昭和50年に当時の保存会会長小林弘司が活字化し、伝承者の教本としている。

◆ 芸能の機会・場所

- 下田原夜神楽... 1月の第3土・日曜日、担当の集落に近い氏神様にて神事後、神楽宿にて奉納
- 春祭り、太鼓の口開け等で「式三番」を奉納

◆ 演目一覧

宮神事

御神幸・道神楽

舞込み

^{ひこまい}彦舞

^{みこうや}御光家はじめ

^{たいどの}太殿

^{かみおろ}神降し 鎮守

^{すぎのぼり}杉登

^{じがため}地固

^{そではな}袖花 ^{ひかんぜ}幣神添

^{ぶちかんぜ}武智神添

^{やつばち}八鉢 住吉

^{いわくぐ}岩潜り

^{ゆみしょうご}弓正護

^{しちきじん}七貴神 ^{ほんばな}本花

^{おきえ}沖逢

五穀 杵舞

^{ごしんたい}御神体

火の前

^{だいじん}大神 ^{じわり}地割

柴上げ

^{やまもり}山森 伊勢

柴引き

^{たちからお}手力雄

^{うずめ}鈿女 戸取り

^{まいびら}舞開き

^{くりお}繰下ろし前半

^{しめぐち}注連口

^{くりお}繰下ろし後半

^{くもお}雲下ろし

※平成27年1月の神楽奉納番付に基づく

❖ 演目の特徴

前半は、祓い清めの舞や諸々の神を招く舞が続く。「杉登」は天に向かう御神木の杉を依代として氏神が降臨し、村人を祝福し昇進する舞で、入鬼神の舞には、素面の舞人が鬼神の背後につき鈴をならす「尻付き」が行われる。入鬼神での尻付きは上野・田原地区に広く伝わっている。

「杵舞」は荒神が米を杵で白米にされる舞といわれ、杵を採り物として四方を舞う。下田原神楽では「杵舞」が単独の演目として深夜に舞われ、続いて伊弉那岐・伊弉那美神が仲良く新穀で酒をこす「御神体」がユーモラスな所作で舞われる。夜明けには岩戸開きの神話にちなんだ「岩戸五番」が奉納され、最後に「繰下ろし」「注連口」「雲下ろし」で神々を送って終了する。

❖ その他の特徴

- 面... 猿田彦、入鬼神、道化荒神、ご神体、柴引き、手力雄、鈿女、戸取など
- 楽... 太鼓、笛
- 装束... 白衣、白袴、素襖、千早、裁着袴、狩衣、毛笠、どっさり、烏帽子、天冠 等
- 採り物... 鈴、榊、扇、御幣、杖(荒神杖等)、弓、矢、刀、麻緒、折敷、帯、杵 等
- 文書... 「神楽の起源」(明治36年)、「神楽の由来」(昭和2年)等が保管されている

❖ 伝承の現状・課題

昭和49年頃は舞い手が少なく深夜12時頃で終了していたが、昭和50年に上田原神楽の協力も得て、夜どおしの神楽を復活させた。数年後には舞い手も増加し、下田原神楽と上田原神楽はそれぞれの夜神楽を独自に奉納するようになった。現在は60歳以上の保存会会員が多く、後継者の養成が厳しくなっている。



住吉



杵舞



鈿女